Kawai：〒041–8611　北海道函館市港町 3–1–1　北海道大学大学院水産科学院；桑村哲生　Tetsuo Kuwamura：〒466–8666　愛知県名古屋市昭和区八事本町中京大学 101–2　中京大学国際教養部；細谷和海　Kazumi Hosoya：〒687–0078 奈良市富雄元町）

魚類学雑誌 66(1):134–134
2019 年 4 月 25 日発行

学会からのお知らせ

2018 年度日本魚類学会年会講演要旨集の訂正

2018 年度日本魚類学会年会（50 周年記念大会）の講演要旨集の中に間違いがありました．表紙 3 の「日本魚類学会 50 年の歩み」の日本魚類学会設立総会の開催地を藤沢市から世田谷区下馬に修正してください．間違いをご指摘いただいた方々に感謝いたします．

（篠原現人　Gento Shinohara：2018 年度日本魚類学会年会実行委員長：〒305–0005　茨城県つくば市天久保 4–1–1 国立科学博物館動物研究部　e-mail: s-gento@kahaku.go.jp）

会記・Proceedings

魚類学雑誌 66(1):134–135
2019 年 4 月 25 日発行

2018 年度年会（50 周年記念大会）

2018 年度年会（50 周年記念大会）が 2018 年 10 月 5 日（金）–10 月 8 日（月）に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催され，以下の会合があった．

1. 2018 年度第 1 回編集委員会

10 月 5 日（金）12:00–14:30 に編集委員 11 名および編集顧問 1 名が出席して 2018 年度第 1 回編集委員会が開催された．

2. 2018 年度第 1 回代議員総会

10 月 5 日（金）15:00–17:00 に代議員 22 名（他に委任状 9 名），会長，庶務幹事 2 名が出席し，2018 年度第 1 回代議員総会が開催された．議長には井口恵一朗氏が選出された．議事は以下の通りで，報告，答申および来年度活動方針案は原案通り採択された．【報告】（1）2017 年度会務報告；（2）2017–2018 年度編集報告；（3）2017 年度決算報告および同監査報告；（4）2018 年度収支予算；（5）2018 年度事業計画書；（6）自然保護委員会からの報告；（7）学会賞選考委員会（担当庶務幹事）からの報告；（8）日本魚類学会史委員会からの報告；（9）標準和名検討委員会からの報告；（10）電子情報委員会からの報告；（11）男女共同参画委員会からの報告；（12）50 周年記念事業実行委員会からの報告；（13）日本分類学会連合に関する報告；（14）自然史学会連合に関する報告；（15）水産・海洋科学研究連絡協議会に関する報告；（16）各委員会（編集委員会以外）の委員と期間．【審議】（17）2017 年度貸借対照表と損益計算書（正味財産増減計算書）；（18）定款の変更案；（19）学会賞規則，学会賞選考委員会の組織および運営細則，優秀発表賞規則の改正案；（20）会計幹事の継続と新庶務幹事；（21）編集委員会の委員と任期の変更案．【その他】（22）今後の年会開催予定（2019 年度：高知大学担当，高知大学朝倉キャンパス；2020 年度：長崎大学文京キャンパス；2021 年度：福井県立大学永平寺キャンパス）；（23）その他．

3. 2018 年度第 1 回会員総会

10 月 6 日（土）12:10–13:00 に会員 102 名が出席し，2018 年度第 1 回会員総会が開催された．議長には井口恵一朗氏が選出された．議事は以下の通りで，報告，答申および来年度活動方針案は原案通り採択された．（1）2017 年度会務報告；（2）2017–2018 年度編集報告；（3）2017 年度決算報告および同監査報告；（4）2018 年度事業計画書；（5）2018 年度収支予算；（6）定款の変更；（7）自然保護委員会からの報告；（8）学会賞選考委員会（担当庶務幹事）からの報告；（9）日本魚類学会史委員会からの報告；（10）標準和名検討委員会からの報告；（11）電子情報委員会からの報告；（12）男女共同参画委員会からの報告；（13）50 周年記念事業実行委員会からの報告；（14）日本分類学会連合に関する報告；（15）自然史学会連合に関する報告；（16）水産・海洋科学研究連絡協議会に関する報告；（17）役員・委員リスト；（18）今後の年会開催予定（2019 年度：高知大学朝倉キャンパス；2020 年度：長崎大学文京キャンパス；2021 年度：福井県立大学永平寺キャンパス）；（19）その他．

4. 日本魚類学会賞授賞式および奨励賞受賞講演

日本魚類学会賞奨励賞は川口眞理氏が受賞し，10 月 6 日（土）13:40–14:10 に「孵化をめぐる魚類の適応進化」のタイトルで受賞講演が行われた．

論文賞は下記の 3 論文が受賞した．

Takahashi H, Kondou T, Takeshita N, Hsu TH, Nishida M. 2016. Evolutionary process of iwame, a markless form of the red-spotted masu salmon *Oncorhynchus masou ishikawae*, in the Ôno River, Kyushu.

Ichthyological Research 63(1): 132–144.
Matsunuma M, Motomura H. 2017. Review of the genus *Banjos* (Perciformes: Banjosidae) with descriptions of two new species and a new subspecies. Ichthyological Research 64(3): 265–294.
Kawanishi R, Dohi R, Fujii A, Inoue M, Miyake Y. 2017. Vertical migration in streams: seasonal use of the hyporheic zone by the spinous loach *Cobitis shikokuensis*. Ichthyological Research 64(4): 433–443.

5. 永年功労者表彰

10 月 6 日（土）13:00–13:05 に口頭発表第 1 会場にて，名誉会員の上野輝彌氏と尼岡邦夫氏に対して永年功労者表彰を行った．

6. 2018 年度第 2 回自然保護委員会

10 月 6 日（土）11:25–12:10 に自然保護委員 10 名が出席し，2018 度第 2 回自然保護委員会が開催された．

7. 学会設立 50 周年記念展示

10 月 6 日（土）–10 月 8 日（月）に学会設立 50 周年記念展示が実施された．

8. 研究発表会・50 周年記念シンポジウム

口頭発表第 1 会場・第 2 会場・ポスター発表第 1 会場・第 2 会場に分かれ，一般 184 題および中・高生 19 題の研究発表が行われた．参加者は開催期間を通じて 493 名（内当日参加 113 名）であった．10 月 8 日（月）には，学会設立 50 周年を記念して下記のシンポジウムが開催され，約 140 名が参加した．

「日本の魚類学－その歴史と次世代への展望」

9. 学生優秀発表賞

平成 29 年度から学会の公式の賞として新設された学生優秀発表賞（外国人学生を含む学生会員対象）を今年度も実施した．口頭発表賞応募の 24 件から下記の最優秀賞 1 題と優秀賞 2 題，ポスター賞応募の 54 件から下記の最優秀賞 2 題と優秀賞 4 題が選出された．

最優秀口頭発表賞
- 福地伊芙映氏（琉球大学）「沖縄島におけるコボラとセスジボラの生活史」

優秀口頭発表賞
- 畑　晴陵氏（鹿児島大学）「ニシン科サッパ属 *Sardinella hualiensis* 類似種群の分類学的再検討」
- 竹内　綾氏（日本大学）「環境 DNA 法によるニホンウナギ産卵行動の探索の試み」

最優秀ポスター賞
- 芝田直樹氏（龍谷大学）「環境 DNA メタバーコーディング法を用いた 1 年間の調査から得た矢作川の魚類群集構造の季節変化」
- 村瀬偉紀氏（長崎大学）「海洋生活期におけるアユの経験塩分履歴と成長履歴の関係：成育環境としての汽水域の重要性」

優秀ポスター賞
- 福家悠介氏（京都大学）「ミャンマーの古代湖・インレー湖固有の淡水魚類 *Channa harcourtbutleri* の起源」
- 伊藤菜波氏（東海大学）「伊豆諸島周辺海域から採集されたトラザメ属の 1 未記載種」
- 植村洋亮氏（愛媛大学）「自然共存域と人為移入由来地域におけるタナゴ亜科 2 種の交雑」
- 伊藤　岳氏（大阪市立大学）「体外受精から体内受精へ：バイカルカジカ類における精子の進化」

10. 日本魚類学会設立 50 周年記念祝賀会

日本魚類学会設立 50 周年記念祝賀会は 10 月 6 日（土）18:00–20:00 に国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟レセプションホールにて開催され，278 名が参加した．

11. 集合写真

日本魚類学会設立 50 周年を記念して 10 月 7 日（日）12:15–12:45 に口頭発表第 1 会場にて参加者の集合写真を撮影した．

12. オークション

書籍のオークションが行われ，499,150 円の基金が得られた．浅野三千代氏，片野　修氏，木村清志氏，木村祐貴氏，小西英人氏，松浦啓一氏（五十音順）から寄付を賜った．

13. 代議員会・総会抜粋資料

会員数（7 月 31 日付け退会・8 月 1 日付け入会現在）

会員種別		2017 年	2018 年	増減
個人	一般会員	910	872	–38
	学生会員	145	183	+38
	外国会員	69	56	–13
名誉会員		6	6	0
団体会員		75	74	–1
賛助会員		1	1	0
計		1,206	1,192	–14

2017–2018 年度編集報告

（1）投稿論文

2017 年：209 編（英文誌 150 編，和文誌 59 編）

投稿論文内訳

英文誌：分類 29；系統 1；形態 14；行動 2；生態 39；稚魚 4；遺伝 16；生理 11；その他 34

和文誌：分類 18；系統 0；形態 2；分布 2；行動 1；生態 7；稚魚 0；遺伝 1；生理 0；その他 28

2018 年 7 月 31 日現在：129 編（英文誌 100 編，和文誌 29 編）

投稿論文内訳

英文誌：分類 27；系統 1；形態 6；行動 0；生態 23；稚魚 2；遺伝 11；生理 14；その他 16

和文誌：分類 4；系統 0；形態 1；分布 3；行動 2；生態 8；稚魚 1；遺伝 1；生理 0；その他 9

（2）原稿受付から出版までに要する日数（原著論文）

英文誌（64 巻 1 号から 64 巻 4 号まで）

受付から出版までの日数

最短期間 210 日；最長期間 790 日；各号の平均期間は 339（64 巻 1 号および 2 号）から 442 日（64 巻 3 号）

和文誌（64 巻 1 号から 65 巻 1 号まで）

受付から出版までの日数

最短期間 46 日；最長期間 475 日；各号の平均期間は 166 日（64 巻 1 号）から 246 日（65 巻 1 号）

2018 年度一般社団法人日本魚類学会活動方針

（1）理事候補者選挙および代議員選挙の実施

（2）年会開催と開催準備（2019 年 9 月 20 日 –23 日，高知大学朝倉キャンパス）

（3）市民公開講座の開催

（4）科学研究費（国際情報発信）申請